

新見地域における列状間伐による間伐の推進

平成29年度現地検討会 第二部
新見市森林組合説明資料

はじめに

新見地域では、列状間伐を中心に間伐の推進に取り組んでいるところです。路網整備と高性能林業機械の有効活用を図り、低コスト施業を進めています。

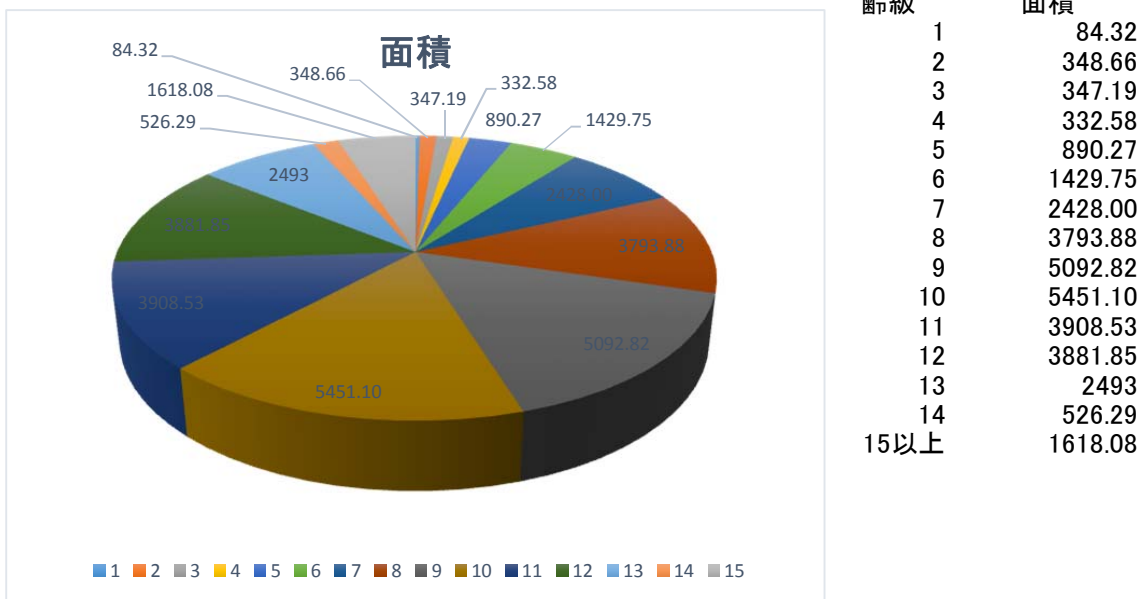
1. 新見市の森林の現況

新見市は、岡山県の最西北端に位置し、西は広島県庄原市、北は鳥取県日野郡に隣接し、東は真庭市、南は高梁市に接している。平成17年3月31日に1市4町が合併し、新生・新見市になった。

本市の総面積は、岡山県の11.2%を占める79,327haであり、全域が中国山地の脊梁地帯に属する起伏の多い地形で、86.2%相当する68,405haを森林が占めており、特に北部の中山間地域は人口林率が高い典型的な山村地域となっている。

なお、林野面積に占める民有林面積は59,297ha、国有林面積は9,113haとなっており、民有林面積に占める人口林面積は、32,626ha人口林率は55.0%となっている。

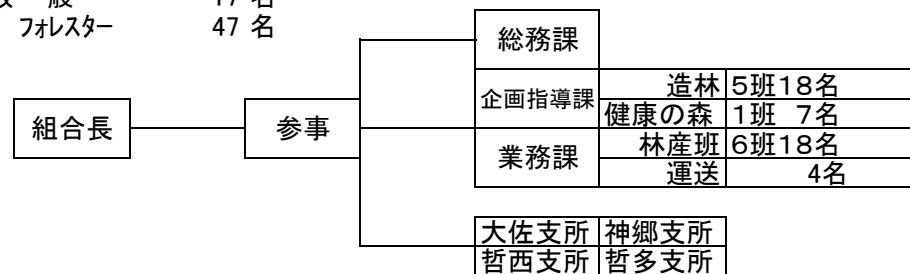
人工林の年齢別の構成



2. 新見市森林組合の概要

新見市森林組合は平成16年10月1日、1市4町の組合が合併し、新生・新見市森林組合になった。

- ① 管理区域 新見市一円
- ② 資本金 135,000 千円
- ③ 従業員数 一般 17 名
フォロスター 47 名
- ④ 組織図



林業事業体	林産	5名未満	7社
		5名以上	3社
		10名以上	2社
		15名以上	1社
	造林	5名未満	4社
	計		17

3. 搬出間伐に占める列状間伐の割合等

H28森林組合木材取扱材積

32,000 m³

椎茸原木 1,000 m³
パルプ

一般材 31,000 m³



利用間伐面積 500 ha

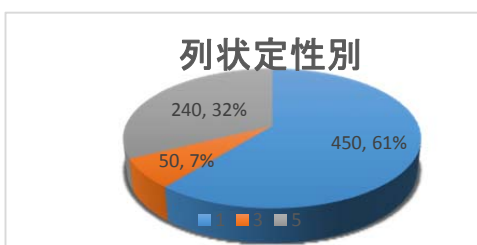
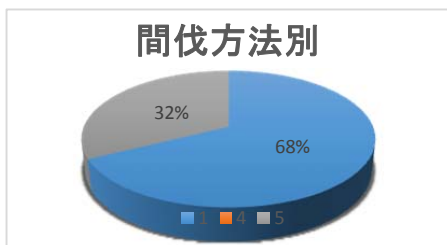
列状間伐 450 ha

定性間伐 50 ha

水源林事業
一般事業

切捨間伐 240 ha

切捨間伐 240 ha



4. 搬出間伐における列状間伐と定性間伐とのコスト比較

(条件) スギ 20% ヒノキ 80% 混合

平均的な搬出条件の山林
列状パターン 2残1伐(33%)

	列状	定性	摘要
伐倒、搬出造材	5,600	7,900	
運材	1,800	1,800	
運送	1,700	1,700	
計	9,100	11,400	

5. 列状間伐を実施することに関して、森林所有者から了解を得るための工夫等

当時の状況

- 1 材価の下落、安値安定時代に入る。
- 2 優良材が一般材と同価になり、質より量の時代になった。
- 3 公有林が列状間伐施業に取り組んだ。

同意を得るための組合の工夫

- 1 プラン書を作成し森林所有者一人一人に丁寧に説明を行なった。(定性間伐との収支の比較及び間伐後の状況、路網設計)
- 2 所有林を財産と考えずに林業と考えるよう指導した。
- 3 手が入っており、間伐だけが遅れている山から実施した。
- 4 列状間伐パターンを2残1伐で統一した。
- 5 路網設計に山主の意見を第一として取り入れた。
- 6 次回の間伐方法も説明し、長伐期施業を理解していただいた。



大佐小阪部中ノ谷
列状間伐 (2残1伐, 33%)
完成





Handwriting practice lines consisting of a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, repeated vertically.



Handwriting practice lines consisting of a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, repeated vertically.

奈 白

Handwriting practice lines consisting of a solid top line, a dashed midline, and a solid bottom line, repeated vertically.

施行前

